

2 講座・研修の様子

(1) 特別講義

講師：九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官 榎 登志幸 氏

◆ 高齢者の移動手段の確保について

はじめに、地域公共交通の現状について、長期的な利用者の減少、コロナの影響による急激な落ち込み等によって公共交通事業者の経営環境が悪化していることや、運転手不足を要因とする路線バスの休廃止などの動きが拡大していくおそれがあること等の説明がありました。

次に、高齢者の移動手段を確保するための制度等についての説明があり、自家用自動車による有償運送と無償運送の違いや許可・登録の要否等を学びました。



最後に、最近の地方公共交通の動きとして国土交通省の「リ・デザイン」（再構築）の取組や好事例についての説明があり、3つ（官民共創・交通事業者間共創・他分野共創）の「共創」、自動運転等のデジタル技術を実装する「交通DX」、車両電動化等の「交通GX」が重要であることを学びました。

(2) 人材育成基礎研修

〔午前の部〕講師：（NPO法人）日本ファシリテーション協会フェロー 加留部 貴行 氏
進行：（株）トライログ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 高齢者人材の活躍の場づくりへの期待と留意点

加留部氏の動画による講義と問題提起をもとに、平山氏の進行でワークショップが進められました。

講師によるプログラム全体像の説明と参加者一人一人の自己紹介の後、はじめに、「あなたは何歳まで働きたいですか」「現職退職後の過ごし方を考える中に地域での活動はありますか」「働き続け活動し続けるためにはどのような自分でありたいですか」などの問いをもとに、ペアで意見交換を行いました。



次に、高齢者人材の活躍が求められる背景と課題について、動画による講義が行われました。

講義では、高齢者人材の活躍が求められる背景等について、①社会全体の「人不足」（生産年齢人口の減少は長期的に継続していることから、高齢者も「働き手」として期待されている）、②高齢者人材の出番



（公的支援サービスではまかなえない「隙間」の増大や「自助」の限界により「共助」と「近助」の必要性が高まっている）、③健康寿命の延伸（「信頼」、「ネットワーク」、「人との関わりやつながり」などが日々の安心感や元気の源になる）があることを学びました。

続いて、高齢者人材の活躍の場づくりのアプローチと留意点について説明がありました。

講義では、高齢者人材に活躍してもらうため、リタイア前の早めの段階で他者の多様な生き方や考え方を知る機会を設けることの重要性や、スムーズにキャリアや役割転換への気持ちとスキルの準備をしてもらう方法、高齢者自身の「自発性」を引き出す環境づくりについて見識を深めました。



最後に、「相手起点で考える支援の姿」と題して、「これから高齢者人材のための行政・社協の役割」について講義が行われました。

「人を管理して『育てる』だけではなく、人を支援して『育ち』を促す」ことや、管理と支援の本質的な違い、対話とは「聴く」×「話す」であり、どちらかが0になると対話は0になってしまうこと、対話を通じた「関係づくり」などについて学びました。



〔午後の部〕講師：（株）トライログ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 「ファシリテーションとは」「ワークショップデザイン」

ファシリテーションとは何か、ファシリテーションのポイントやファシリテーターの役割、ワークショップデザイン等について研修を行いました。

ファシリテーション

人々の活動が容易にできるように、人と人の関係性に働きかけ、うまく運ぶようにすること



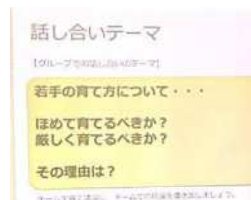
はじめに、ファシリテーションが求められる背景には、従来型のリーダーシップとマネジメントでは限界があることや、組織を動かす3つの機能（ファシリテーション・リーダーシップ・マネジメント）があること、ファシリテーターは、対話の場づくりのための準備を行った上で、傾聴と質問で対話を促進し、発言を可視化して議論を整理する舵取りの役割であることを学びました。

次に、ファシリテーション演習を行いました。

話し合いの準備のために必要な「3つの視点」(①方向性[目的・目標・形態]、②素材[情報・役割・時間]、③場[空間・雰囲気・道具])を学び、ペアワーク等による実践に臨みました。ペアワークでは、傾聴することにより、話し手の背後にある感情を理解し、気持ちを受け止める「傾聴受容」や、質問により話し手の意見を引き出し、内容を整理し、話の論点を明確にする「論理把握」を意識しながら、質の高い聴き方を身につけるための実践を行いました。



その後、ファシリテーターの役割として求められる「ファシリテーション・グラフィック(議論を描いて整理する手法)」を学ぶため、3人1組になりワークを行いました。①1人のつづやきを書き留める、②2人の会話を書き留める、③2人の対話を書いて整理するなどの方法を実践し、理解を深めました。



さらに、2日目の人材育成実践研修に備え、「ワークショップデザイン(人と人がつながり、相互作用が生まれる対話の場をつくること)」について研修を行いました。

ワークショップ

参加者が自発的に作業や発言を行える環境において、参加者の体験を通してアイデア創造や問題解決などを行う学びの場

グループ内での意見を可視化するためのワークを実施し、グループで議論するテーマの前提条件を揃えることで話がまとまりやすくなること、より話を広げ参加者の想いを引き出すことを意識して質問をすることが、納得感のある結論につながることを、ワークや発表を通して学びました。



(3) 人材育成講座

◆ オリエンテーション

講師：鹿児島県社会福祉協議会 長寿社会推進部長

地域住民、市町村社協・市町村職員が初めて顔を合わせた中、まず、本事業の目的及び先細る地域のつながりの復活と充実を図るためにシニア人材の育成と活動の促進を行ってきたことについて話をしました。

次に、研修の進め方(地域課題の掘り起こし→解決方策の取組決定→取組実践→振り返り→次の実践へ)について説明を行いました。



◆ ワールドカフェ

講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

ワールドカフェ（カフェのようなリラックスした雰囲気のもとで、メンバーを入れ替えながら行う会議）の手法を用い、1日目で学んだファシリテーション研修の内容を生かしながら、「地域活動で上手くいっていること」「地域活動で困っていること」をテーマに、様々なアイデアを出し合い意見交換を行いました。同じ地域の住民だけではなく、別地域の住民も含めた話し合いも実施しました。

最後にワールドカフェを通して感じたことを、同じ地域の住民、市町村社協・市町村職員で共有しました。



（4）人材育成実践研修

講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 地域の課題解決ワークショップ

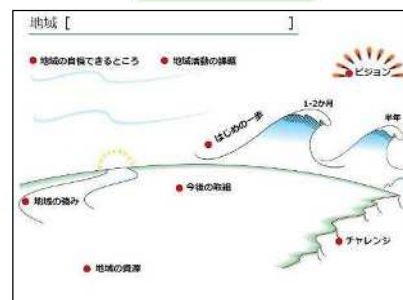
地域ごとに分かれ、市町村社協・市町村職員がファシリテーターとなり、地域住民の思いを引き出しながらグループワークを実施しました。

まず、『対話のテンプレート』を用いて、地域の強みや資源・課題等を洗い出し、「今後の取組」についてアイデアを出しました。

次に『はじめての一步のテンプレート』を用いて、『対話のテンプレート』の内容を振り返りながら、「1～2ヶ月後」と「半年後」の取組を具体的に計画し、グループごとに発表を行いました。

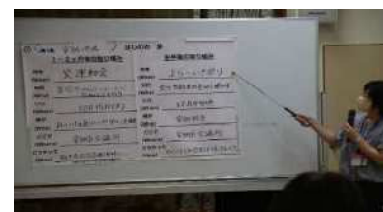
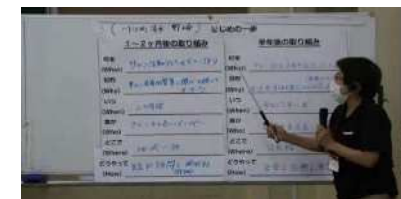
最後に、地域でチャレンジしてみたいこと、5年後、10年後に地域がどのようになってほしいかといった地域の「ビジョン」について話し合い、地域住民、市町村社協・市町村職員で共有しました。

対話のテンプレート



はじめての一步のテンプレート

はじめての一步	
1～2ヶ月後の取組み	半年後の取組み
何を (What)	何を (What)
目的 (Why)	目的 (Why)
いつ (When)	いつ (When)
誰が (Who)	誰が (Who)
どこで (Where)	どこで (Where)
どうやって (How)	どうやって (How)



（5）フォローアップ研修

講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

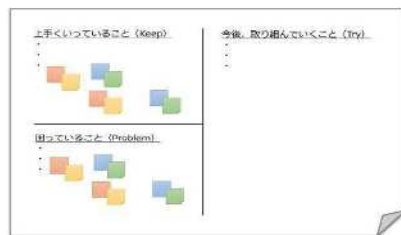
- ① 人材育成実践研修で作成した課題解決に向けたアクションプランの進捗状況を確認する。
 - ② 現状の取組状況を踏まえて、新たに動けるようにする。
 - ③ 地域住民と市町村社協・市町村職員がさらに協力して取組を進められるようになる。
- という3つの目標を掲げ、フォローアップ研修を実施しました。



◆ グループワーク

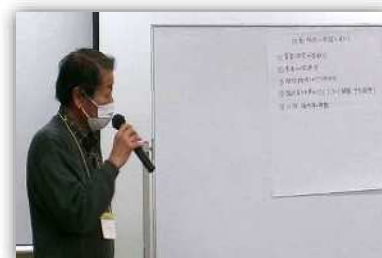
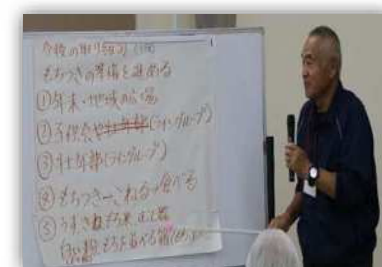
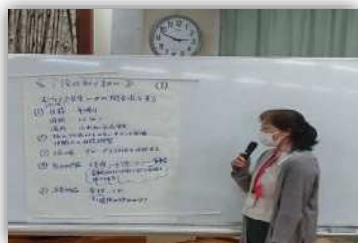
地域ごとのグループに分かれ、人材育成実践研修で作成した『はじめての一步のテンプレート』を参考に、『ふりかえりテンプレート』を用いて、「上手くいっていること (Keep)」や「困っていること (Problem)」について書き出していました。その後、他グループと情報交換を行い、再び地域ごとのグループで、「今後、取り組んでいくこと (Try)」について話し合いを行いました。

ふりかえりテンプレート



◆ 次の一步と全体共有

『ふりかえりテンプレート』の「今後、取り組んでいくこと」の中から、直近で取り組む「次の一步」を選びました。そして、次の一步を具体的に進めるための計画（日程、時間、場所、参加者、内容等）を立て、研修の成果とともにグループごとに発表し、感想を共有して研修会を終えました。



※ 各地域の取組事例（アクションプラン実践事例）は、次ページ以降に掲載⇒